



春の里山にみられる 植物のご紹介



2021.03.27

タチツボスミレ

スミレの仲間です。茎が直立あがったように花が咲いているのが特徴です。花弁は5枚で、下の方にだけ模様がついています。葉はハートの形をしています。スミレの名前の由来は、花の形が“墨入れ”に似ていたことから“スミレ”がなまって“スミレ”となったという説があります。



アオキ

年中青いことから名付けられました。雄の木と雌の木があり、雄の木に花粉を付けた雄花が咲き、雌の木には雌しべのある雌花が咲きます。花粉を昆虫などが運ぶことで受粉をし、赤い実がなります。(右の画像は雄花です)



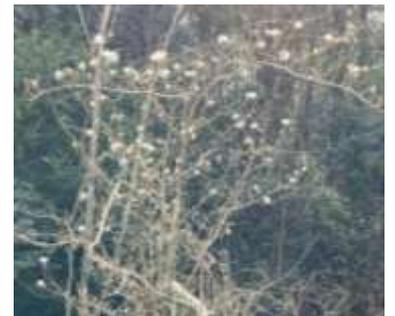
ショウジョウバカマ

ユリの仲間です。花が“ショウジョウ”という伝説の妖怪のように赤いこと、葉が袴の形に似ていることからこの名が付いたと言われています。地面に近いところで開花しますが、茎をのぼして上の方で種をまきます。山の斜面の湿ったところを好み、花が少ない時期に咲いて蝶の蜜源となります。



シデコブシ

白色の花が咲きます。氷河時代の生き残りといわれています。伊勢湾の周辺を中心に、東海地方のみに自生しています。湿地を好みます。



カンアオイ

ハート型の葉をしていて、2月頃より花が咲きます。種はアリが運ぶので、広範囲には広がりません。ギフチョウはカンアオイの葉の裏に卵を産み、幼虫はこの葉しか食べません。ギフチョウは近年個体数の減少が著しい岐阜県で発見されたアゲハチョウです。



アベマキ

樹皮がコルク質で甘い樹液をだし、夏になるとクワガタなどの昆虫が集まります。ドングリがないます。

シュンラン

野生のランで、山の裾に自生しています。花はほのかな香りで塩漬けにしてお茶に浮かべるなどして楽しむ方もみえます。

クロモジ

木の枝が良い香りなので和菓子の楊枝に使用されます。葉や枝を刻んでクロモジ茶にして楽しむ方もみえます。

イワカガミ

葉がテカテカしていて鏡のようになっていることからその名が付いたと言われています。もう少しするとピンク色の花が咲きます。コープぎふの森・関にも多くみられる植物です。

アセビ

馬酔木と書きます。漢字の通り、馬が食べるとフラフラになる植物です。

サカキ

仏花によく使用される植物です。春になると雄花から独特な香りがします。メジロ(鳥)が好んで食べるため、里山でどんどん増殖していきます。